

NGO連携無償資金協力「エプワース地区およびクウェクウェ郡における中等教育の環境改善事業」引渡式

2月16日、田中大使は、クウェクウェ郡シバンガニ中学校において日本政府の支援により設置された施設（校舎、トイレ、太陽光発電ポンプ施設による水の確保等）の引渡式に参加しました。この支援は、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンが2019年2月～2022年2月に総額約2億3千万円で実施している、NGO連携無償資金協力「エプワース地区およびクウェクウェ郡における中等教育の環境改善事業」において実施されたものです。

クウェクウェ郡やエプワース地区における中等教育施設では、教室数が不足し、老朽化した狭い建物や屋外で授業が行われています。また、多くの子どもたちが長い距離を歩いて通学するなど、十分な教育環境が整備されていないため、多くの子どもたちが学校を中退してしまいます。教育内容については、多くの教師が体罰を含む不適切な方法で子どもたちを叱責し、生徒の心に傷を負わせたり、退学に追い込んだりしている実態が明らかになっています。

今回の教育環境改善事業では、このような問題に対処すべく、クウェクウェ郡のシバンガニ中学校とムガンダニ中学校において、校舎建設等のインフラ整備を行いました。エプワース地区においては、多くの人口に対して学校の数が不足しているため、新設されたアデレード中学校の校舎を建設し、2020年に開校しました。また、10校（エプワース5校、クウェクウェ5校）の教師に対して、「褒めて伸ばす教育法を用いた生徒指導法の確立と実践」の研修を実施しました。

本日のシバンガニ中学校での引渡式には、女子生徒141名、男子生徒106名全員と近隣の小学校の児童、保護者、地域住民とともに、日本大使館、プラン・インターナショナルジンバブエ代表、初等中等教育省等のジンバブエ政府関係者、シバンガニ地区長など、およそ500名が出席しました。

田中大使は、プロジェクトを予定通り完了させたプラン・インターナショナルと地元学校関係者に感謝の意を表しました。また、子どもたち、特に女子生徒がもつ才能や可能性を引き出せるよう、十分な教育施設と適切な指導法が重要であることを伝えました。プラン・インターナショナル代表は、学習環境が改善されたことで、子どもたちが生活や仕事に必要なスキルを身につけることができるようになったと述べました。

学校関係者、地域代表、ジンバブエ政府関係者からは、政府の重点分野である適切な教育環境の提供に資する、日本政府からの支援に対する感謝の意が述べられました。

日本政府は、ジンバブエにおける教育環境の改善に向けて、今後も教育分野への重点的な支援を行っていくこととしています。



田中大使のスピーチ



関係者によるリボンカット



事業により設置された校舎



事業により設置されたソーラーポンプと水道



設置されたトイレ



設置された校舎前の田中大使と生徒